

第22回愛知県精神障害者スポーツ(バレーボール)大会競技規則

第1条 本規則に定める以外は、2025年度 公益財団法人日本バレーボール協会制定6人制競技規則によるものとする。

第2条 施設と用具

1. コートは、18m×9mの長方形とする。
2. ネットの高さは、2m24cmとする。
3. ボールは公益財団法人日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール球・糸巻きタイプ(円周77～79cm、重量200～220g モルテン製)を使用する。

第3条 競技参加者

1. 試合は6人制の男女混合チームで行い、常に女性が1名以上出場していなければならない。
2. チームは監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とする。

第4条 競技方法

1. 試合はリーグ戦又はトーナメント戦で行う。
2. 全試合3セットマッチとする。
3. 1セット25点のラリーポイント制とし、2セット先取したチームを勝ちとする。
なお、得点が24対24の同点となった場合は、それ以降に2点リードしたチームがそのセットの勝ちとする。
全試合の3セット目は、13点先取した時点でコート交代を行う。
4. 試合は、ワンボールシステムで行う。
5. チームには、1セットに2回のタイムアウト(1回30秒間)と6回の競技者交代が認められる。(監督もしくはゲームキャプテンのみが要求できる)
6. スターティングラインナップの競技者は、交代によりコートを離れても1セットにつき1度だけ元のポジションに戻ることができる。
7. 例外的な交代として、負傷した競技者の代わりにコート上にいない競技者と交代ができる。ただし、交代後も女性選手が1名以上出場していなければならない、不可能な場合にはその時点でゲーム終了・没収試合とする。
8. サービスの実行
 - ・主審がサービス許可の吹笛後8秒以内にボールを打たなければならない。
 - ・サーバーは、エンドラインの後方、かつサイドラインの延長線上の内側で打たなければならない。またその際エンドラインを踏んではならない。
 - ・サービスは、ボールがトスされたか、手から離された後、片方の手または腕で打つ。
(片方の手のひらに置いたままのボールを、もう片方の手で打つことはできない)
 - ・サービスを直接アタックもしくはブロックして相手コートに返すことはできない。
9. タッチネットについて
 - ・ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である
ボールをプレーする動作の中には、(主に)踏み切りからヒット(またはプレーの試み)着地までが含まれる。
10. センターラインの踏み越しについて
 - ・ラリー中片足又は両足が完全にセンターラインを越えて相手のコートに侵入した場合は反則となる。

第5条 服装

1. 運動のしやすい服装で出場する。
2. 素足での参加は認めない。体育館シューズを持参すること。
3. ユニホームには番号をつけなければならない。もし、番号がなければビブスを着用すること。(主催者でビブスは準備します)

第6条 監督・コーチ・キャプテン

1. 競技中断時、ゲームキャプテン及び監督だけが審判に対して質問することができる。
2. 監督はベンチの記録席に最も近い位置に座る。ただし、試合を妨害または遅延しない限り一時的にベンチを離れてもよく、アタックライン延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーンの範囲内では立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。

その他

1. 競技の参加チーム数、試合の進行状況、その他の理由により、試合形式、進行方法等に変更がある場合がある。
2. 交流試合の実施方法等については、監督者会議で協議する。
3. 平成30年度全国障害者スポーツ大会競技規則(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定) 試合球は、日本ソフトバレーボール連盟公認球・糸巻きタイプ(モルテン製・円周77～79cm、重量200～220g)とし、主催者で用意する。